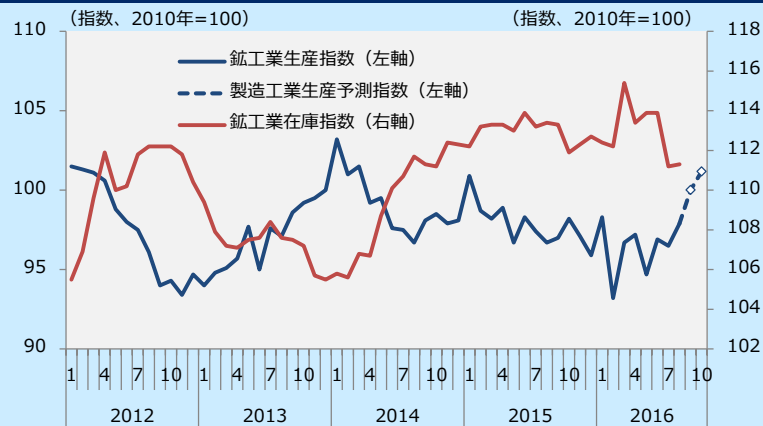


日本：鉱工業生産指数（2016年8月）

—8月の生産指数は、電子部品牽引による持ち直し—

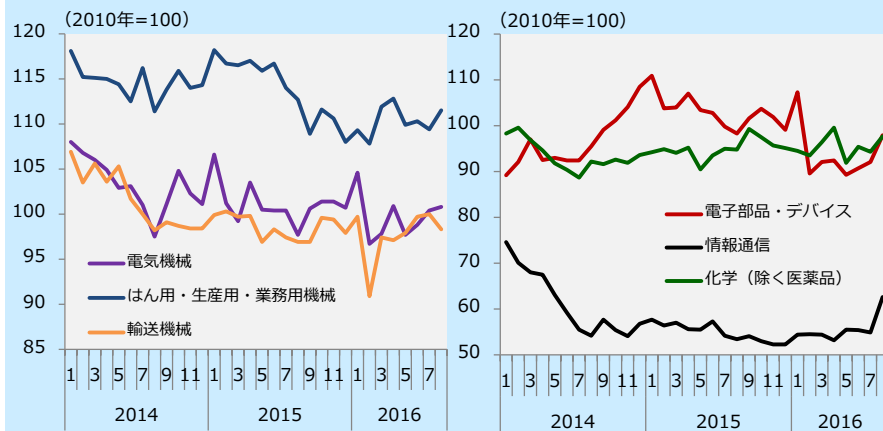
MRI Daily Economic Points
September 30, 2016

図表 鉱工業生産／在庫指数



資料：経済産業省「鉱工業指数」、「製造工業生産予測調査」

図表 業種別の生産指数



資料：経済産業省「鉱工業指数」

評価ポイント

2016年8月の結果

- 2016年8月の鉱工業生産指数(速報)は、季調済前月比+1.5%と2ヶ月ぶりに上昇。一方、出荷指数は同▲1.3%と3ヶ月ぶりに低下した。
- 8月の生産の業種別内訳をみると、熊本地震などからの挽回生産の反動減もあり、輸送用機械(季調済前月比▲1.7%)が低下。一方で、スマートフォンやカーナビゲーション向けを中心に電子部品・デバイス(同+6.3%)が上昇。さらにパソコン関連や半導体等製造装置の増加で、情報通信機械(同+14.0%)、はん用・生産用・業務用機械(同+1.9%)がそれぞれ上昇し、機械関連の伸びが全体を牽引した。また、化粧品増加により化学(同+3.6%)も上昇した。
- 8月の在庫指数は、季調済前月比+0.1%とほぼ横ばいとなったが、高止まりが続いていた電気機械を中心に在庫調整が進んでいるとみられる。
- 製造工業生産予測調査によると、9月は季調済前月比+2.2%、さらに10月も同+1.2%の上昇を予測している。9月は、今月大きく上昇した情報通信機械や電子部品・デバイスが反動減となるものの、輸送用機械、化学の上昇が押し上げに寄与する予想となっている。7-9月の鉱工業生産は、予測調査対比で下振れる傾向を踏まえても、プラスとなる可能性が高い。経済産業省公表の先行き試算値でも、季調済前期比+1.5%の上昇となるとしている。

基調判断と今後の流れ

- 生産は、緩やかながらも持ち直している。経済産業省も「一進一退だが、一部に持ち直し」から「緩やかな持ち直しの動き」に基調判断を引き上げた。
- 生産の先行きは、海外経済は緩やかながらも回復に向かうとみられるが、内需の回復力は鈍いことから、持ち直しのペースは緩やかなものになるだろう。
- また、円高が一段と進行した場合や、中国の経済成長が想定以上に鈍化した場合、生産が下振れる可能性には注意が必要だ。